

導することになった学生のフィールドには必ずお出かけになる。そうすることが、学生のためにもなるし、また、ご自分のためにもなると言われており、過去5年間の指導学生のフィールドはすべて巡られたのではないかと思う。先生は、4年前、体を壊され、入院されたことがあったが、その年でさえ、フィールド行きは欠かされなかったと記憶している。フィールドに出ることで、御自分の健康度を測っておられるようでもあり、私が、先生にとってフィールドワークは基本と思う所以である。私は、各地のフィールドへおいでになる先生からいろいろなお話しを伺う機会を持ち、「助手の役得」とその都度楽しみに聞かせて

いただいた。

過去何十年かにわたるフィールドワークの蓄積が、先生が近年ご講義なさっている「地誌学」の一つの源ではなからうかと拝察しているが、不勉強にして在学中に履修する機会を逃してしまったことが残念である。

最近のフィールド行では、しばらく止めておられた自動車の運転も「大丈夫だったよ。」とおっしゃるほどお元気でいらっしゃる。これからも、益々お元気でフィールドにお出かけになり、新しいお話を伺えることを希望している。

(31回生)

## 式先生の退官によせて

葉 倩 璋

入学してから十年、長々とお茶大にお世話になっている私は、式先生と身近に接する機会も多く、先生のかくれた一面を垣間見ることのできたひとりだと思う。

そんな一面にふれることができるのは、なんとも巡検である。つねづね、先生はフィールドワークの大切さを説いてこられてきた。実際に自分の足で歩き、その土地を知ることが、地理学を学ぶにあたっての基本であることを、入学したときから教え込まれたものである。事実、先生の巡検に参加する度に、フィールドワークの大切さを実感すると共に、先生の「地域」に対する着眼点の鋭さと豊かさ、そして、聞き取りテクニックの絶妙さに敬服してしまうのである。先生には、その地域の特性を直感的に看破してしまわれる能力がおありのようである。もちろん、それが豊富な知識の上に成り立つことはいうまでもないが、何げなく見過ごしてしまう小さな事象をも視野に捉え、「なぜそれがそこにあるのか」という素朴な疑問に端を発して、最後には、その最初の「ひっかかり」こそが、その地域の特性を解き明かす鍵であったことが明らかとなるのである。そして、それまでのその地域に対する漠然とした印象が、肉付けされて一挙に奥行を持ったものと

なっていることに気づかされる。自然的要素にしろ、人文的要素にしろ、ささいな特徴からたぐりよせるようにして、その地域を浮き彫りにしていられる手腕は、それが、あくまで自然体で進められているため、いっそう鮮やかなのである。

そうした地域への切り口の鮮やかさもさることながら、先生の聞き取りテクニックは、先生のお人柄をも物語っているようで、特に印象深い。

巡検では、そこで出会う人にいきなり聞き取りに及ぶことが度々あるが、そんな時の先生の話の切り出し方は実にさりげなく、まるで世間話をするような気さくさのなかで、いつのまにやら事実の核心に迫ってしまっているのである。その間のとり方はなんとも絶妙というほかに、横でいつもただ感嘆しながら聞かせていただいている。

たしか五日市・秋津方面への巡検であったろうか、ぜいはあと山道を上っていたところ、大きなカゴを背負い、黙然と歩いてくる老人と出会った。すると先生はふとその老人と肩を並べたかと思うと、「やあ、おじさん、何を運んでおられるんですか」と語りかけ、そのまま老人と愉快そうに話を交わしながら、歩を進められたのである。たいそう気難しそうにみえた老人であったので、思わず息をこらして様子をうかがったが、老人もまた愉

快そうに受け答えしていた。肝心な話の内容は忘れてしまっているが、その時の先生の後ろ姿は鮮明に印象に残っている。

先生はまた、写真を得意としていらっしゃることは、授業で見たスライドでも明らかである。まるで、その場所へ行った気になるので、授業での「スライドタイム」をことのほか楽しみにしていたものである。しかし、私はなんといっても、折りにふれ拝見させていただいたスナップ写真、なかでも人物写真が実にいきいきとしていて、好き

である。先生の撮られた人物写真を見ると、なぜか、五日市でみた先生のまあるい後ろ姿が思い出されて仕方ないのだが、つまりそこに共通して先生のヒューマニティが結晶されているように感じられるのである。

式先生、これからもますますお元気で、ご活躍をお祈り申し上げます。そして折りにふれて、これからも叱咤激励、ご鞭撻くださいますようお願いいたします。

(34同生)